



UCI ワールドチーム直下、若手中心の育成チーム。2023 シーズンは6名の日本人選手が所属。

## アフリカ最大ステージレースで プリッツェンが山岳賞獲得！

育成チームEFエデュケーション・NIPPOは、2月下旬にアフリカルワンダにて開催された「ツール・ド・ルワンダ (UCI2.1)」に出場しました。ヨーロッパから6つのUCIプロチームが出場するハイレベルな大会に、日本からは留目夕陽が大会初の日本人選手として、過酷な8日間の山岳ステージレースに挑みました。そして第2ステージで逃げに乗ったマーク・プリッツェン (南アフリカ) が山岳賞ジャージを獲得すると、23歳のプリッツェンは気迫の走りで最終日までジャージを死守。大会を通じての敢闘賞獲得とともに、チーム史上最高のリザルトを残しました。

UCIワールドチームのEFエデュケーション・イージーポストは2月中旬ポルトガルでの「ボルタ・アオ・アルガルヴェ (UCIプロシリーズ)」で区間2勝。今季勝利数を10まで伸ばしています！



山岳賞ジャージを着用し、日を追うごとに強さを纏っていったプリッツェン。「自分はこういうタイプの選手だ、という既成概念を取払い、自分の可能性を感じる事ができた」とコメント。



2025年にロード世界選手権が予定されているルワンダでのステージレース。今年で15回目の開催を迎え、年々自転車競技の人気は高まっており、連日沿道には大勢の観客が集まりました。



19ヶ国、30選手が所属するグローバルな世界トップカテゴリーのUCIワールドチーム。



ボルタ・アオ・アルガルヴェで区間二連勝を挙げたマグナス・コルト (デンマーク)。今季も調子がよく、今後さらなる活躍が期待されています。



2月最終週、ベルギーでは風物詩となる春のクラシックシーズンが開幕しました。厳しい石畳や急坂を含む伝統のレースが4月上旬まで続々と開催されます。

MORE INFO > <https://teamnippon.jp>